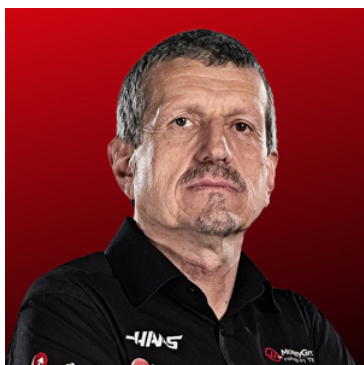


GUENTHER STEINER

Team Principal of Haas F1 Team in the FIA Formula One World Championship

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Topics

- Leadership
- Sports
- Teamwork

ハース F1 チームを率いるギュンター シュタイナーは、F1 で最も人気があり、知名度の高いチーム代表の 1 人です。国際モータースポーツで30年以上の経験を持つ彼は、2016年にチームオーナーのジーン・ハースに代わって初の世界選手権キャンペーンを立ち上げて以来、アメリカ唯一のF1チームを率いてきた。イタリアのメラノで生まれたシュタイナーは、プロモータースポーツのキャリアをスタートさせた。ラリー活動に参加し、当初はマツダで成功を収めた後、独立したトップランチームに加わり、その後ジョリークラブ組織に加わり、有名なランチャ デルタ インテグラレーやフォード エスコート RS コスワースなどの車を走らせた。

1994年から1996年にかけて、シュタイナーがテクニカルマネージャーを務め、チームはイタリアラリー選手権で連続タイトルを獲得した。英国バンペリーのプロドライブ組織に移籍したシュタイナーは、そのオールスター ラリー チームのチーム マネージャーに就任し、わずか最初のシーズンでヨーロッパ選手権で優勝しました。これにより、彼はフォードのラリーチームである M スポーツに招待され、そこでエンジニアリングディレクターに就任し、世界チャンピオンのコリン・マクレヤカルロス・サインツと協力しました。

2002年、フォードはギュンター・シュタイナーにF1プロジェクトであるジャガー・レーシングへの移籍を依頼した。彼はマネージングディレクターとしてチーム再建の任務を引き受け、チームに在籍した1シーズンでドライバーのエディ・アーバインと共にイタリアで表彰台を獲得した。短期間オペルで働いた後、シュタイナーはすぐにレッドブル・レーシングでF1に戻り、オーストリアのエナジードリンク会社は後にアメリカ合衆国でNASCARレース・プログラムを設立するよう彼に依頼した。

これにより、シュタイナーはノースカロライナに移り、彼のキャリアの新たな章が始まり、チーム レッドブルだけでなく、ハイテク カーボン複合材の設計および製造会社であるファイバーワークス コンポジットを設立することになりました。起業家のジーン・ハースがF1チーム創設のロジスティクスを模索し始めたとき、彼はその取り組みを主導するようシュタイナーにアプローチした。レースやラリーチームを一から構築して成功を収めた過去の経験により、彼はこの任務に最適な人材となりました。

ハース F1 チームは 2016 年にデビューし、初年度をコンストラクターランキング 8 位で終え、合計 29 ポイントを獲得し、このミレニアムに誕生したチームの中で最多となりました。それ以来、ハースは F1 を代表する独立チームの 1 つとして確固たる地位を築き、2018 年には世界選手権で 5 位に終わりました。2022年、シュタイナーのチームはデンマーク人ドライバー、ケビン・マグヌッセンの手により史上初のF1ポールポジションを獲得した。

一方、ハース F1 チームのボスは、彼の率直な語り口と、大人気の Netflix シリーズ『Drive To Survive』を通じて明らかになった鋭いユーモアのセンスのおかげで、メディアにもファンにも人気の人物となっています。英語、ドイツ語、イタリア語を流暢に話すギュンター・シュタイナーは、今日のF1で最も知名度があり、

人気の高いチーム代表の一人です。

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988